

のんた

16

山口の土地改良

vol.16

Autumn 2014

21世紀の食料・環境・ふるさとを考えよう！

●巻頭特集

ユネスコ無形文化遺産に登録！

「和食」は、
日本人の心を体現した
社会的慣習です

入選作品のご紹介

第15回食料・環境・ふるさと

写真コンテスト

入選おめでとう！！

「ふるさとの田んぼと水」
子ども絵画展2013

注目です！

農業用水や太陽光を活用した
再生可能エネルギー
県内初「簡易型小水力発電」と
「防草発電シート」

ユネスコ無形文化遺産に登録！

「和食」は、日本人の心を体現した社会的慣習です



ユネスコの無形文化遺産に「和食」；日本人の伝統的な食文化」が登録され、今、世界的に和食への関心が高まっています。わたしたちも山口県の伝統的な食文化について見つめ直してみませんか。

四季や地理的な多様性による「新鮮で多様な食材の使用」「自然の美しさを表した盛り付け」といった特色をもつ和食。

和食は自然を尊重する日本人の心が育んだ食文化であり、正月や田植などの年中行事と密接に関係し、家族や地域の結び付きを強めてきた社会的慣習でもあります。

そうしたことから日本は、「和食」；日本人の伝統的な食文化」は無形文化遺産としてふさわしいと考え、平成24年、ユネスコへ提案しました。



日本人の精神「自然の尊重」を体現

その提案の名称は「和食：日本人の伝統的な食文化」。和食は「自然の尊重」という日本人の精神を体現した、食に関する社会的慣習」であると定義し、次の4つの内容に大別して提案しました。

1 多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重

日本は南北に長く、海・山・里の豊かな自然が広がっているため、各地で地域に根差した多様な食材が用いられている。また、素材の味わいを活かす調理技術・調理道具が発達している。

2 栄養バランスに優れた健康的な食生活

一汁三菜を基本とする日本の食事は理想的な栄養バランスと言われている。また、「うま味」を上手に使うことで、動物性油脂の少ない食生活を実現し、長寿や肥満防止に役立っている。

3 自然の美しさや季節の移ろいの表現

季節の花や葉などを使った飾りつけ、季節に合った調度品や器の利用など、食事の場で四季を表現し、季節感を楽しんでいる。

4 正月などの年中行事との密接な関わり

日本の食文化は、年中行事と密接に関わる。自然の恵みである「食」を分け合い、食の時間を共にすることで、家族や地域の絆を深めてきた。

和食

washoku



日本では、和食の保護措置として「学校給食や地域の行事での郷土料理の提供」や「親子料理教室等の各種食育活動の実施」「郷土料理や食文化に関するシンポジウムの開催等」を行っていることもアピールしました。

こうした日本からの提案は、政府間委員会の代表6カ国で構成された補助機関による勧告を経て、平成25年12月、条約締結国のうち代表24カ国からなる政府間委員会において審査され、「和食：日本人の伝統的な食文化」はユネスコの無形文化遺産に登録されました。



無形文化遺産登録の真の目的とは

和食のユネスコ無形文化遺産登録への取り組みは、日本食文化についての再認識のきっかけとなることを狙いとして行われてきました。今回の登録をただ喜ぶだけでなく、これからも日本食文化への関心が継続され、次世代に向けた保護・継承へとつなげていくことが大切です。

山口県でも地域の伝統的な食文化を見つめ直し、保護・継承へと取り組みを広げていきたいと思います。



継承しよう！ 地域色豊かな山口県の食文化

【けんちよう】

主にダイコンや豆腐などを、しょうゆで味付けして煮込む家庭料理です。大鍋にたくさん作っておき、何日か煮返して食べることも少なくありません。

【岩国寿司】

岩国の祝いごとには欠かせなかった、何段にも重ねられた華やかな押し寿司です。すし枠の底に葉蘭を敷き、すし飯を詰め、その上に色とりどりの具を散らし、段を重ねます。最後に木のふたを載せ、重しをかけて寝かせた後、枠を引き抜き、切り分けます。かつては「角ずし」などと呼ばれ、各家庭では男性が作っていました。

【大平】

鶏肉をだしに、サトイモ・ナガイモ・シイタケ・高野豆腐・ゴボウなどを入れて煮た料理で、岩国では、岩国寿司と共に祝いごとには欠かせないとされてきました。汁が多いことや、大きな蓋付きの塗り物に入れて食事の場に出してから、一人ひとりに取り分けていくことが特徴です。

【いと煮】

冠婚葬祭に欠かせないとされた山口県の郷土料理です。県内でも地域によって、汁気のあるもの、ないものがあり、ただし、小豆と白玉団子を用いることは共通します。萩地域の特徴は、汁気が多く、その汁が澄み、塩味が少し勝ること。味を整えただし汁に、ふっくらと煮ておいた小豆・白玉団子・シイタケなどを入れて煮て、冷ましてからいただきます。祝儀の時は食紅で赤く染めた白玉団子、不祝儀の時は白一色あるいは緑色に染めた白玉団子を用います。瀬戸内海側では、汁気がなくなるまで煮詰めること、甘いことが特徴です。

【ちしやなます】

葉の縁に縮れが多いチシヤをちぎって、酢みそなどとあえる、山口県内各地で親しまれてきたあえものです。「ちしやもみ」とも呼ばれ、防府市出身の俳人・種田山頭火は「ふるさととはちしやもみがうまいふるさとにある」と詠んでいます。

和食

washoku



教えて！ ユネスコの 無形文化遺産



Question and Answer

Q ユネスコの無形文化遺産って？

A 芸能や伝統工芸技術などの形のない文化で、土地の歴史や生活風習などと密接に関わっているものことです。

Q どんな分野のものがあるの？

A 「口承による伝統及び表現」「芸能」「社会的慣習、儀式及び祭礼行事」「自然及び万物に関する知識及び慣習」「伝統工芸技術」の分野です。

Q 日本のどんなものが登録されているの？

A 能楽や人形浄瑠璃文楽、結城紬、壬生の花田植（広島県）など。平成25年12月現在で22件が登録されています。



山口新聞社賞
『藍場川慕情』萩市川島藍場川
広田和夫 (宇部市)

維新の古里、萩市内の松本川と橋本川に挟まれた三角州にある藍場川です。この川はいにしえより住民の生活用水、鯉も泳ぐ観賞用水、そしてこのように「ハトバ」という洗い場として親しまれてきました。昔ながらの冬の大根洗いに接し、心和むひとときでした。縦構図で奥ゆき感を出し、俯瞰気味のアングルからその美しさを強調しました。土まみれの大根もきれいな水で真っ白になり、人の暮らしも潤っています。いつまでも心に残しておきたい県内の至宝です。



水土里ネット山口会長賞
『しろ魚取り』萩市
幡生佳彦 (宇部市)

構図を決めるのに苦労した1枚です。



中国新聞防長本社賞
『青田の散歩道』周南市中須
山本由里子 (周南市)

「あついね。もう少しよ」と先生の声が聞こえるようです。子どもっていいですね。一日心がなごみました。



山口県知事賞
『春の日』周南市大道理
一山哲男 (田布施町)

芝桜がきれいとの情報を得て、家内と二人で見物に行った。丘の上に1本の鯉のぼりが立っており、丘から見ていると女の子が鯉の尻尾をつかまえようとジャンプした。その行動が可愛かった。2~3枚撮ると止めてしまった。



山口県地球人会議会長賞
『朝日を浴びて』下関市豊北町粟野川
中山 淳 (下関市)

冬の風物詩粟野川の青ノリ採りを撮りました。

第15回
食料・環境「水・土・人・暮らし」
ふるさと写真コンテスト

一般の部

入賞作品のご紹介



山口県内の農山漁村の良さを再発見していただく「水・土・人・暮らし」をテーマに、平成11年度から始まった「食料・環境・ふるさと写真コンテスト」。15回目を迎える今年度は、9月から12月にかけて募集を行ない、県下各地から農山漁村の風景や生き物、人々の営み、伝統文化、などを撮った337点の作品の応募がありました。
すばらしい自然や文化が数多く残る農山漁村は、まさに私たちの、そして生き物たちの心通うかけがえのないやすらぎの地、次世代に残していきたい宝です。入賞作品20点を紹介します。



山口県地球人会議会長賞
【お仕事中】 周南市
 三浦沙紀 (下松市・年長)

じいちゃんとはあちゃんがお仕事をしているところを撮りました。綺麗に撮れたのを見せたらよろこんでくれました。
 (家族で実家に遊びに行った時に5歳の娘が撮った写真です。写真を撮るのは好きなので、私が以前使っていた小さめの一眼カメラを渡すと、いろいろなものを撮ります。この日は、じいちゃんとはあちゃんをモデルにして撮りました。)



優秀賞
【かやぶきとコンバインのコラボ】
 山口市徳地堀
 松本綾香 (下松市・小学5年)

偶然、家族で移動中にかやぶきの家を見つけましたので、家を訪ねて写真コンテストに応募するために撮影の了解と家の前にある田んぼの稲刈りの日時を教えてくださいました。かやぶきの家を背景に稲刈り作業の写真を撮りましたが、コンバインが左回りに常に動いているので、撮影するのに非常に苦労しました。



優秀賞
【大根学校】 岩国市の中学校
 山田良樹 (岩国市・中学3年)

友達からプレゼントでもらった大根の種を学校の花壇に植えました。種は水をかけたり、肥料をあげたりと世話をしたら芽を出しました。校舎が大根の成長を見守っているような感じがしたので撮影しました。

第15回

食料・環境「水・土・人・くらし」
 ふるさと写真コンテスト

入賞作品のご紹介



【天日を浴びて】 平生町佐賀
 吉田勝三 (下松市)

平生町佐賀海岸に水揚げされたカタクチイワシ。海からの潮風にさらされ、天日を浴び、更にうまさが増した海の幸。秋から初冬にかけての風物詩。



【豊漁を願って】 下関市豊浦町室津
 河野サエ子 (下関市)

コウイカの産卵時期に合わせた伝統的な漁「イカシバ漁」の準備作業をしていた笑顔の女性に出会い、私も豊漁を願いつつ、撮影させていただきました。



【春の記憶】 岩国市由宇町神東
 北辻勝己 (和木町)

ドライブ中に心ひかれた風景です。幼い頃の記憶の風景のような懐かしい印象を受け、シャッターを切りました。生活感を出したかったので何かないか待っていたところ、住民と思われる方の自動車が降りてきました。夕方のやわらかい光とうまくマッチしたと思います。

【秋まつり】 下関市菊川町桜井神社
 森木泰代 (下関市)

山村の素朴なお祭りで、みんなが集まり行う秋祭り。のんびりした風景で心がほっこりします。



【鵜匠の技】 岩国市錦帯橋
 岡本公一 (山口市)

存続が危ぶまれています。ぜひ残してほしいと思い、出掛けました。匠の網さばきに感心しました。是非残してほしいです。



【田植えの頃】 下関市菊川町上大野
 井上 守 (防府市)

畔に集うアマサギの群れです。きっと餌も沢山いるのでしょう。このような光景はいつまでも残しておきたいものです。



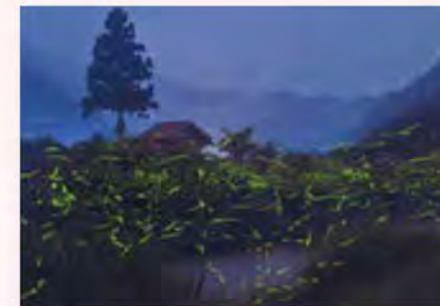
【田植の準備】 長門市油谷立石
 宮崎 茂 (長門市)

立石部落には、段々棚田が多い作業、苦勞の連続。それでも頑張る。



【田植えの頃】 山口市仁保中郷
 来栖旬男 (山口市)

田んぼに水が張られた情景や、田んぼが次第に緑の苗で埋められていく様子は、生き生きとした農村の姿を見るようで、心安らぐものがある。



【山里の煌き】 周南市北部大潮地区
 蔵尾利美 (宇部市)

新聞でホテルの写真を見て、大潮の里へ行きました。あんなに沢山のホテルを見たのは生まれて初めてで、山が黄金に輝いて、里の錦川沿いではイルミネーションの様にキラキラと光を放って乱舞し、幻想的で感動しました。「大潮の里を守る会」の皆様、ありがとうございます。



【赤い潮】 長門市青海島
 串岡妙子 (下関市)

青海島でも高齢化で年々祭りをするのが困難になっていると聞きました。最近では、水産高校の生徒や水産大学の学生さん等も参加して祭りを継承していると聞きました。



【二人の秋】 長門市油谷後畑
 有吉 昇 (長門市)

高齢の御夫婦が農作業をされていたので、写真を撮らせていただきました。後継者不足が叫ばれている昨今ですが、お二人の素敵な笑顔には収穫の喜びが溢れていました。



【白いうね】 萩市むつみ村
 輪田重昭 (山口市)

山桜と白いうねが、美しいようになっていた。



入選

注目です！

農業用水や太陽光を活用した
再生可能エネルギー

県内初「簡易型小水力発電」と 「防草発電シート」

小規模な水路を活用した「簡易型小水力発電」や、ダム法面を活用した「防草発電シート」。今、注目の「再生可能エネルギー」について紹介します。



再生可能エネルギーとは？

再生可能エネルギーとは、資源が枯渇せず繰り返し使え、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出しない優れたエネルギーのことです。

具体的には、太陽光や風力、水力、バイオマス、地熱、太陽熱などがあります。そうした再生可能エネルギーへの注目が高まる中、山口県内では2014(平成26)年3月、小規模な水路を活用した初めての「簡易型小水力発電」がスタートしました。

農業用水路を活用！ 「簡易型小水力発電」

簡易型小水力発電を始めたのは、萩市福栄小野田の農業用水路と、田布施町小行司の水路の2カ所です。



萩市福栄小野田の農業用水路



田布施町小行司の水路

それぞれの水路には、流量や落差など、現地の地形条件に応じて、タイプの異なる2種類の簡易型小水力発電施設が施工されました。

それらはいずれも売電が目的ではなく、土地改良区等が管理する電気柵や照明へ電力を供給することを目的としています。

発電開始と同時に、県による効果検証も始まりました。現在、発電量や、落ち葉や土砂などの流入の影響、浸水によるトラブルの有無などについて、調査・検証が進められています。

Q 小水力発電の特徴は？

A (1) 農業用水路などの既存の施設をそのまま利用でき、「建設時の環境負荷が少ない発電方式」であることです。

(2) 電力の出力変動が少なく、「昼夜年間を通じて安定した電力」が得られることです。

(3) 発電過程において「CO₂を排出しない再生可能エネルギー」であることです。

Q 簡易型小水力発電とは？

A 少ない水量でも発電できる簡易な発電施設を用いるものです。

Q どんな水車を設置するの？

A 「流量・流速を利用する場合」「落差を利用する場合」「地形を利用してパイプで取水する場合」と、現地の地形条件によって水車のタイプは異なります。



山口県初の簡易型小水力発電！
ただいま2カ所で実証中です

田布施町小行司地区
〈落差利用〉

萩市福栄小野田
〈流量・流速利用〉

区分	内容
電力用途	獣害防止用の電気柵
出力	5ワット
水車形式	フロート式下掛水車
材質	ポリ塩化ビニル、約9kg
使用水量	0.200m ³ /s(立方メートル毎秒)

区分	内容
電力用途	農作業用の照明
出力	40ワット
水車形式	上掛式クロスフロー水車
材質	ステンレス、約300kg
使用水量	0.020m ³ /s(立方メートル毎秒)
有効落差	45cm



※実証の状況は…(平成26年5月現在)
・発電施設の稼働率100%
・ごみ混入や浸水等のトラブルなし

※実証の状況は…(平成26年5月現在)
・発電施設の稼働率100%
・ごみ混入や浸水等のトラブルなし

防草と発電のW効果！
「防草発電シート」



石井ダム



施工の様子

山口県では、ほかにも再生可能エネルギーとして新しい取り組みが始まっています。
それは農道や水路などの法面に、フィルム型の太陽光発電を組み込んだ防草シート「防草発電シート」を施工し、斜面の法面を有効に活用しようというものです。

2014(平成26)年4月、柳井市にある農業用ダム「石井ダム」の管理用道路の法面に、10枚の防草発電シートが施工されました。
発電開始とともに県による実証試験もスタートし、今後3年間、防草と発電の効果が検証される予定です。

Q どんな効果が期待されるの？

A 「防草」と「発電」の2つの機能をあわせ持つシートです。曲げや持ち運びが容易なため、地形条件に応じた施工が可能です。

A 防草効果により、農道や水路といった斜面の「草刈りなどの手間の低減」が期待されます。同時に太陽光発電もできるので、「発電した電力を農業用ポンプなどへ活用」したり、「余剰電力を売電」したりといった効果が期待されます。

防草発電シート！
ただいま柳井市のダムで
実証中です

石井ダム
〈管理用道路の法面〉

区分	内容
電力用途	農業用ポンプ(揚水機場)へ供給。 余剰電力は中国電力に売電
施工面積	約80平方メートル (防草発電シート1枚は2×4メートル)
発電出力	2.7kW



※実証の状況は…(平成26年5月現在)
・発電状況は良好



農業用水や太陽光を活用した
再生可能エネルギー

農村の資源を生かし、
地域活性化へ

今、農家などの地域住民の皆さんが発電事業者となって、農業用水などを有効に活用した再生可能エネルギーの導入や検討が、全国各地で進められています。

小水力発電に関するさまざまな助成制度もあります。導入事例などをもとに、現地の特性や助成の内容なども照らし合わせて地域で考え、小水力発電などの再生可能エネルギーを農村地域の活性化に生かしてみませんか。

小水力発電に関する助成制度

- ・施設設備への助成(4種類)
- ・調査検討への助成(1種類)
- ・実証試験への助成(1種類)

小水力発電の
導入を
お考えの方は…

- 山口県農村整備課計画調整班
TEL083-933-3423
- 山口県農業用水小水力発電
推進協議会 事務局
TEL083-933-0038



入選「自分の家から見える田んぼ」

下関市立粟野小学校5年(当時)

すえどみきよへい
末富恭平さん



入選「田と石垣を守るじいちゃん」

岩国市立玖珂小学校4年(当時)

にしこおりまな
錦織麻菜さん



入選「清らかな小川澄んだ水」

柳井市立柳井南小学校5年(当時)

せき はやて
世木颯生さん



入選「田んぼがいっぱい」

山陽小野田市立埴生小学校4年(当時)

にしながゆうや
西永憂哉さん

Congratulations!!

入選おめでとう!!

「ふるさとの田んぼと水」

子ども絵画展2013

主催:全国水土里ネット・都道府県水土里ネット



入選「さばあさまおくり」

長門市立油谷小学校2年(当時)

やまもとせいのすけ
山本清之介さん



入選「変わっていく景色」

岩国市立河内小学校1年(当時)

なかしまだい
中島大樹さん



水土里ネット山口 会長賞

「ころがし」

防府市立佐波小学校5年(当時)

とくもともちか
徳本桃佳さん

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展は、子どもたちにそうした田んぼや農村に関心を持ってもらい、「田んぼ」「ため池」「農業用水路」などの風景や大切な水路を守っている人たちの姿を通して、水の循環や環境保全への理解をうながし、大人たちへのメッセージとして子どもたちのまなざしを届けることを目的として開催されています。

この絵画展には未就学の3歳から小学校6年生までが参加でき、14回目を迎えた今年には全国各地から8、650点にも及ぶ力作から寄せられました。応募のテーマは、「新発見!ぼくのわたしのふるさと」。山口県からは7名の方が入選および団体賞に選ばれました。おめでとうございます。その作品をご紹介します。

日本の農業・農村は、私たちの暮らしに欠かすことのできない米や野菜を生産していく場としての役割を果たすとともに、自然環境を守り多様な生き物を育む場としての役割も担い、さらには洪水を防いだり大気や水質の浄化をするなど多面的な機能ももっています。また、農村の豊かな自然や美しい風景、歴史的な遺産や伝統などは私たちの貴重な文化であるとともに、未来を担う子どもたちの豊かな感性を育てるかけがえのない財産でもあります。



みどり 豊かな水の里を守る～水土里ネット～

全国の農業用の水路の長さは全てをつなげると約40万km、地球10周分にもなります。用水路のほかにもため池やダム、川から水を引く頭首工、水を均等に分ける円筒分土工など、水田や畑の水を「ためる」「取り入れる」「運ぶ」「流す」「分ける」ために作られた水利施設はいろいろあります。田や畑に十分な水が届くようにそれらの水利施設を手入れし、豊かな水の里を守っているのが「水土里ネット」、正式名「土地改良区」という農家の集まりです。

発行

●
食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議 事務局

〒753-0079 山口県山口市糸米2丁目13番35号 水土里ネット山口 山口県土地改良事業団体連合会内
TEL:083-933-0033 FAX:083-933-0048 URL:<http://www.yamadoren.or.jp/>